



【生活の現場に来て下さる復活の主】

本日の聖書本文:ヨハネの福音書21章1-17節・暗唱聖句:ヨハネの手紙第一5章3-5節 説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。『平安があなたがたにあるように。』こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。」(ヨハネ20:9、20)

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族みなさん!今年も我らの救い主なるイエスキリストの復活を祝うイースターを迎えました。イースターの主の日の朝、兄弟姉妹お一人お一人のうちに、今集まっているご家族みんなの上に復活の主が今日も来られ、豊かな恵みと祝福を、守らせ、回復させて下さる主の御手が共にありますようにお祈り申し上げます。本来なら、本日教会で共に祝い、ゆで卵を配り、探などいろいろな行事が行われるはずでしたが、今さらに深刻となっているこの度の新型コロナウイルス感染の拡大と長期化の中で、世界も日本の社会も大きな困難の中、10日には愛知県知事からも独自緊急事態宣言が出されました。小牧にも、そのうちに3人の感染者が出たり、愛知県全学校もまた5月6日まで休校も伴い、コロナが差し迫っている中、ついに我らの教会も、みんなの予防と安全の為、本日イースター礼拝から、映像ライブ礼拝に転換し、各家庭で今礼拝を共に捧げて下さっています。しばらくみんなで会えませんが、どうか会える日まで子どもたちから高齢者まで、一人一人の身体と魂が守られますように!今も感染拡大を止めるべく労しておられる方々、感染の影響を受ける人々のために労しておられる方々、行政、医療、福祉、教育その他各分野の働き人に主の守りがありますように!コロナなどの病で罹患している方々にどうか速やかな癒やしを、亡くなった方々にご遺族に主の御手がともにありますように!一日も早くこの事態の終息を心から祈っております。是非みなさんも、共にお祈り下さればと切に願い求めます。

どうか共に集まっても、離れていても、CPC信仰の家族として、神様との関係をしっかり保ち、聖書の御言葉にとどまり、祈りの生活を大事にして下さい。また、今の時こそ、牧場家族を大事に覚え、連絡したりしてお互い励まし合い、祈り課題を分かち合って祈り合って繋がっていくよう宜しくお願い致します。私も一人ででも毎早天の時に、講談の後ろで膝まずき教会家族お一人お一人の健康と主の御守りと平安の為と祈りをさせて頂きます!

イースターの主の日の朝、復活の日の弟子たちの姿を思い巡らします。扉を閉じ、鍵をかけ、部屋の中に閉じこもっていた弟子たち!彼らの心もまた恐れと不安の中で閉ざされていたことでしょう。しかし死に打ち勝って確かによみがえられた主イエス・キリストはその真ん中にお出でくださいました!そして「平安があなたがたにあるように」と教えてくださいました!
イースター主の日の朝、愛する教会の兄弟姉妹おひとりひとりのもとに、今集まっていられしやご家族のもとに、復活の主がお出でくださることを信じ、待ち望みます!そして主イエスの十字架の傷跡を前に「弟子たちは主を見て喜んだ」とあるように、不安の中にいる私たちもこの主にある喜びと平安に包まれることを信じ、待ち望みます!そして共に主にあって結ばれた神の家族の一つの群れとして、これから一層互いに心を合わせる祈りに繋がり、導かれたいと願います。

<本文>

今日の聖書本文は復活の主が過ちを経験し、信仰が弱まっていた弟子たちの生活の現場にまで来られ、一人一人を回復させて下さるドラマがガリラヤの水辺(すいへん)で展開されていた内容です!

本文の2-3節をみると、テベリヤの湖畔の所は、イエス様の時代には、エルサレムから歩いてガリラヤの湖畔まで、3日間かかる距離でペテロはエルサレムを離れ、歩いて、以前の自分の地元に戻って来ていることが分かります。ペテロだけではなく、トマスとナタナエル、ゼベダイの子たち、そして、ほかの弟子二人もペテロと一緒に来たことが分かります。すでにエルサレムで2度も蘇られたイエス様と出会った弟子たちだったのに、なぜ、エルサレムで続けてとどまらず、3日間も離れていた以前の自分たちの生活の現場に戻って来てしまったのか、その理由ははっきり教えていませんが、今日の本文の後半で蘇ったイエス様がペテロとの会話と姿を通して、関係を立て直し、もう一度主から与えられていた人生の大事な使命を取り戻して下さる内容を通して、一つ推測が出来る事があります。

ペテロはじめ、イエス様の弟子たちの心の奥底には、復活されたイエス様と出会うたびに、イエス様の復活が確かであることが信じられれば信じられるほど、以前イエス様を3度も裏切ってしまった申し訳なき、十字架の前で逃げてしまった自分たちの信仰の無さと弱さ、だから自分たちよりもっと他の人たちがイエス様の弟子としてもっとふさわしいのではないかと、もう自分たちには復活された真の神の御子の前では弟子として到底恥ずかしく、もうイエス様のお働きに関わる事なんて失格だ!という思い込んでいたのではないのでしょうか。そして、これからの日常の生活もしないといけないうえ、選んだ場所がペテロとゼベダイの子たちの地元、彼らの以前の生活の現場であった(ルカ5章)でした。ペテロ、ゼベダイの兄弟ヤコブとヨハネだけではなく、一緒に来たのは、きっと、同じ心境で、状態だった他の4人の弟子たち、合わせて7人が一緒にテベリヤつまり、ガリラヤの湖のところに来たことが分かります。

<1. 生活の現場にまで来て下さる復活の主(1~7節)>

今日の本文の1節から7節までによりますと、イエスはエルサレムや聖殿のような霊的なことにだけ関与される方ではありません！イエスの死と復活の後、ペテロをはじめとする弟子たちの7人がティエリア(ガリラヤ)湖に魚(りょう)に行ったところにも、来て下さいます。礼拝していた場所、祈られた場所、宣教地ではなく、彼らの生業の場所に戻ったところにも来て下さいました。ところが、問題は、生業の現場によみがえられたイエス様現れましたが、彼らはすぐに気づかず、全然分からなかったことです！弟子たちは、そこに現れた方の言葉を聞いて、その通り網を下ろしてから、奇跡的に魚が多く獲られた時ようやく、その方が蘇られたそのイエス様であることが分かりました！それは、まさか、弟子たちは、復活された主がこんな自分たちまで、そして、このようにエルサレムから離れた自分たちの日常の現場にまで、ここまで！直接来て下さるとは、まったく思ってもなかったようです！

弟子たちは、イエスの復活の恵みを体験してからも、慣れ親しんだ仕事の場に戻って行きました。イエスはそのような彼らに再びご自分を現し、彼らが悟るように促されました。蘇られた主は今日も私たちの生活の場に来て下さり、我らの人生を正しい道へ導いて下さいます。復活の主は今日も、今も、教会だけではなく、祈る場だけではなく、主のために奉仕する場だけでなく、みなさんの日常生活の中にも来られ、共におられるお方です！皿洗いをしている、子供たちを育てる、家族と共にいるみなさんの家庭にも来られ、日常の働いているみなさんの職場にいる時にも来て下さいます！

我らの人生の歩みの中では様々な問題がありますが、私たちの生活の現場にも来て下さり、その復活のイエス様と出会い、待ち望み、親しく交わることが出来るお方です。

本日復活の主日朝、もう一度共にまず、今みなさんの家庭に、生活の現場に来て下る復活の主がいつでも共におられることを忘れない全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます！

<2. 過ちとトラウマに直面させ乗り越えさせる復活の主>

人はみんな成功を望みます。みな目標を目指し、願いどおり、物事がうまく行くと願ってない人はだれもいないと思います。だれも過ちを犯したり、過去のトラウマにとらわれたくないでしょう。しかし、過ぎ去った以前のことを振り返って見れば、物事が願う通りうまく行った時があれば、思わぬ辛い過ちや失敗の経験もした時もあるのではないのでしょうか。一切そんな経験もなく、完璧な人生を歩んでいる人は一人もいないでしょう。我々にも思い出したくない自分が犯してしまった過去の過ちや失敗で、自分がかかりしたり、それが自分にずっとトラウマになってしまう時があります。

しかし、そのような過去の自身の過ちやトラウマにずっととらわれていると、自分も知らないうちに、無気力になったり、周りの人や新しいことへの拒否と恐れを抱いたりします。本来の神様から頂いた自分の人生の目標、もしくはビジョンを失わせます。前を進むことをふさいで、立ち止まらせ、成長と新たな変化も拒否してずっと安住させようとし、自分自身をなかなか赦さず、自己憐憫に陥りやすくさせます。

今日の弟子たちも、すでに2度もイエス様と出会うたびに、どれほど感謝と喜びも溢れていたでしょうか。しかし、ペテロとイエス様の弟子たちには、解決しなければ、ならない心の奥底に隠していた自分の大きな過ちによる深くトラウマに抱えていました。蘇ったイエス様の御顔を出会うと、イエス様が苦難を受けられた時に否定したり、呪ったりした姿、イエス様の十字架の前で他の人々にイエス様の弟子である関係がばれてしまったら、どうなるかと恐れと不安で逃げ去っていた自分自身がどれほど心痛み、いやになったのでしょうか。イエス様の弟子としてまじめで、熱心だったペテロこそ、そういう振る舞いしか出来なかった自身を許せない、これ以上弟子としての失格なしという自己憐憫と自己否定に陥っていたのではありませんか。

復活のイエス様は、ペテロはじめ、弟子たちのその深い心の傷や挫折、トラウマになっている全ての心の状態を知っておられました！そして、彼らのところにまで行かれ、自然に、温かくそのトラウマになったところを直面させながら、それを乗り切っていくように回復させて下さいます。

みなさんは、まず、ペテロがイエス様を知らないと言いつつも否定したり、キリストの十字架の前で身を隠しながら、トラウマになって、もう二度も見たくも、聞きたくも、食べたくもなかった物は何かご存じでしょうか。鶏でしょう！

イエス様が「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」(マタイ26:34)と言われたお言葉に、ペテロは自己満々で、自己過信しながら、「ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。(マタイ26:35)」言われました。しかし、彼は3度もイエス様を否定し、呪った途端に、鶏が泣きましたよね。

聖書は、その時を生々しく証言して下さいます。

「すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。」(マタイ26:74-75)と記されています。

おそらく、ペテロは彼の失敗の傷が癒される前まで、もしかして、一切鶏を見たくも、鶏肉(とりにく)料理も食べなくなったかも知れません。もしかして、エルサレムで毎朝鶏の鳴く声を聞きたくないから、海辺のところまで逃げ去って来たかも知れません。

そして、ペテロは以前大祭司の家の庭で炭火に当たりながら、イエス様の弟子であることを否定しました。以前炭火の前でイエスキリストを否認しながら失敗してしまった為ペテロは炭火がいやでトラウマになっていたかも知れません。それらを全てご

存じあった復活の主は、本文9節に、イエス様が言われた通りしたら、多くの魚をとって来た時、イエス様が、以前彼が失敗した時と似てる状況つくりになり、待ってておられました。海辺(うみべ)で火を焚き、炭火とその上で魚とパンを用意して彼を食べさせます。イエス様は一度過ちと失敗した環境や状況で、どうして私を裏切ったのか、どうして、あなたたちの為に背負った十字架から逃げってしまったのか、決して叱られず、むしろ、温かくペテロや弟子たちを食べさせて下さいました！！愛する弟子ペテロを再び立ち上がらせようとしておられた復活の主の温かい御心が見えて来ますか。それだけではなりません！

ペテロが一番トラウマになっていた数字はいくらかご存じでしょうか。数字3！じゃないかと思われます。ペテロのトラウマになってなり、過去の犯した過ちをずっと思い出させる物が数字‘三’だったと思います。ペテロはイエス様を三度否定しました！ペテロは、イエス様が絶えず祈りに専念しているうちに、ペテロ含め、弟子たちはみんな寝込んでいたと聖書は証言しています。その代表的な場面がゲッセマネのところでペテロと弟子たちの姿でした。「それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかつたのか。誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです”(マタイ26:40-41)、イエス様は、3度祈りながら、3回祈ることを言われたのにも関わらず、イエス様の御言葉と祈りに対し、そんなに真剣に受け取らなかつた以前の過ちを忘れられなかつたはずでしょう。そして、その結果、ついに、3度もイエス様を裏切ってしまう許せない自分の過ちを招いてしまったのです。

しかし、イエス様は復活された後、ペテロに三度目現されます。「イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現されたのは、すでにこれで三度目である。(ヨハネ21:14)」そして、ヨハネの福音書21章15-17節でペテロに三度もイエスを知らないペテロに、3度も同じ質問(15「ヨハネの子シモン！あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」「はい。主よ。私があなただを愛することはあなたがご存じです！」16節に、2度目も同じイエス様の質問とペテロの答え)、17イエスは3度ペテロにペテロに言われた。「ヨハネの子シモン！あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」と言われたので、(ペテロは)心痛めてイエスに言った。「主よ。あなたは、いっさいのことをご存じです。あなたは、私があなただを愛することを知っておいでになります)」3度答えさせます。決してイエス様のいたずらではなかつたでしょう。ペテロの心の奥底に閉じ込められていた、過ちにより、深い傷とトラウマ、罪責感を全て3度目の同じ、愛の告白を通して、癒されるように、して下さる復活の主の優しい導きではありませんか。

みなさん、特にまた面白かつたのは、ペテロとともにいた弟子たちがイエス様によって、取った魚数も153匹ではないでしょうか。自然に3とトラウマのものに直面させながら、復活のイエス様はこれ以上ペテロが自分の失敗に避けようとしないうで、直面してほしかつたと思われます。あらゆる問題の解決策は問題から逃げるのではなく、問題に立ち向かう時、得られます。自分の過去の傷やトラウマから回復され、癒される道は主の御前に正直にそれを認め、吐き出す事から真の回復と癒しは始まるでしょう。

<3. 本来の関係と初心を回復させ、人生の新たな目標と使命を与えて下さる復活の主>

ルカの福音書5章を見ると、今日の本文ととても似てる場面がありました。つまり、イエス様が、初めてガリラヤの海辺でイエス様がペテロとヤコブとヨハネに訪ねて来られた時が出ています。ペテロは夜通し頑張りましたが、魚(うお)を全く取る事ができませんでした。その時、イエス様が深いところに行って網をおろすようにと言われます。ペテロが主のお言葉に従って深いところに行って網をおろした時、今まで経験したことがなかつたたくさんの魚を取る事を体験しました。イエス様が彼らをこれから魚を獲る漁師ではなく、人を獲る漁師とさせ、人生の新たな目標と使命を与えながら弟子として招いた下さった内容と今日も御言葉はとても似てます。なぜ、復活の主は、この7人の弟子たちに、そして、少なくともペテロにそのような体験をさせたのでしょうか。もう一度、はじめの初心、その時の信仰、イエス様との本来の関係を取り戻させようとする御心ではなかつたのでしょうか。主は自然に初心に取り戻すように導いて下さいました！

今日の本運15-17節によりますと、一度イエスキリストを裏切ったとしても、再びイエスを本当に愛する者を、主は働き人として立たせて下さいます。今日の本文の12、15節を見て見てください。“彼らのため食事を整え、共に食事されます。イエス様は失敗と敗北感に捕らわれているペテロや弟子たちにまず、食事を準備して食べさせて下さいました。共に食事をする関係！実は聖書はとても大切に教えて下さいました。ヨハネ黙示録3:20「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」(あなたがどんなに私を否定し、裏切ったとしても、私から離れようとしても、私の前でどんな赦されなさそうな過ちを犯したとしても、あなたは！変わらない神の家族であり、いつまでも共にし、愛し合う関係であること)を食事を共にしながら、確かめ悟らせて下さいました！

全き愛と豊かな恵みを通して、失敗した弟子たちを回復させて下さる素朴な海辺の朝食の時でした。復活された主は、この豊かな命によって私たちの人生を満すため、今日も私たちに会って下さいます。みなさんもこの豊かなキリストの食卓を共に囲む弟子の一人となりますように！

失敗した過去を振り払って立ち上がり、未来に向かって歩めるようにして下さいました。

そして、食事だけではなく、イエスは特に、シモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」3度の質問に、ペテロは3度イエスに心から答えます。「はい。主よ。私があなを愛することは、あなたがご存じます。」イエスは彼に言われた。主は我々に望んでおられる関係は、愛そのものです。

今日も復活の主は、何か素晴らしい信仰とか、大きな希望ではなく、我々が主と愛し合う関係の回復を望んでおられます。マタイの福音書22章37-40節「そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』38これがたいせつな第一の戒めです。39『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。40律法全体と預言者とは、この二つの戒めにかかっているのです。」

本当の愛一つだけあれば、すべて関係が回復され、癒され、可能です！私たちも、サタン誘惑や攻撃を受けて信仰が揺らぎ、失敗する時があるかも知れませんが、そんな時にも復活の主は、まず私たちをご自分との愛の関係の中に招いて下さいます。

ペテロから愛の確認をされた後、次は使命を託(たく)して下さいます。

それを通して、ペテロを過去の失敗に対する罪責感から回復させ、再び愛に満ちた主の弟子として立ち上がらせて下さいます。そして、復活のイエス様は3度羊を飼うという新たな使命(わたしの子羊を飼いなさい(15節)/わたしの羊を牧師しなさい(16節)/わたしの羊を飼いなさい(17節))を与えられたのです。結局、彼らは、ガリラヤ湖でずっととどまらずに、全世界まで(たとえ、7人の弟子たちの中、トマスはインドまで行きました。)出て行き、多くのたましいを助け、イエスキリストの十字架の愛と恵みの福音を通して、多くのたましいが神の救いを得られるように、主の教会を建て上げることに大いに用いられました。

例え)アメリカ16代目のリンカン大統領は多くの失敗を通してついに勝利した大統領でした。リンカンは‘この世で一番不幸な人’と呼ばれました。彼は4歳に弟がなくなり、彼の妻はほぼ精神異常者でした。二人の息子も彼のもとで死にました。政治に挑みましたが、何度も落選の繰り返しの苦しみを味わいました。彼の一生は失敗の連続でした。しかし、彼の偉大さは続く失敗の中で磨かれました。自分が多くの失敗を経験したので、ほかの人の過ちや失敗を赦す面においては卓越でした。失敗やあやまちに対して彼はこのように語りました。“私の関心はあなたが失敗したかどうかではなく、あなたがその失敗にとどまっているのかどうかです。成功と失敗は我々の人生においてどれほど高くあがったのかではなく、倒れた時何度、立ち上がったかによって決まる。この時、成功を決めることは再び立ち上がる能力による事なのです。”と言いました。多くの失敗から立ち上がった経験者から与えられる大切な助言でしょう。彼はその後、16代目の大統領となり、当時人種差別、黒人奴隷制度を廃止(はいし)させるなど、一度の人生の中で神様から与えられた自分の使命を果たすことが出来たのです。神様は失敗したペテロやリンカンを用いて失敗の中で苦しんでいる人々に尋ね、変わらず愛され、癒し、回復させて下さいます。復活の主イエスキリストは失敗さえも用いてくださる素晴らしい方なのです。

<結論>

イエス様がつけられた十字架は神様の失敗の場所のようにみえるかも知れませんが、神様の恵みは失敗の場所であった十字架の上に臨まれました。その恵みは復活の恵みでした！回復の恵みでした！新しい出発の恵みでした！イエス様の十字架は神様の失敗作のように見えたが、その十字架をとおして復活という傑作が見いだされました。まさにペテロが受けた恵みはその十字架と復活の恵みでした。彼は何度もの過ちをとおして死の経験をしました。そして、イエス様の愛をとおして、もう一度すべて本来通りに回復させて下さる経験をしました。自分の最悪の失敗を通して最高の傑作を作ってくださる復活の主の恵みを経験でした。彼らの失敗を用いて下さいました。私達も過去の失敗を変えることはできません。しかし、我々の未来はこれからいくらでも変えることができます。

今日も、これからも愛するみなさんの上にすべてのことに主の変わらない愛と豊かな恵みが注がれますように祝福を切にお祈り致します。しかし、願わぬ失敗を経験される時もあるかも知れませんが、その時は失敗のため落胆しないで下さい。決して絶望しないで下さい。

今も生きておられる主イエスキリストは、我らの過ちや失敗が人生の停止ではなく、立ち上がらせ、さらに新しく方向転換できるように導いて下さいます。復活の主は、失敗を自分の訓練のチャンスとして、もっと成長できるチャンスとして受け止めるようにしましょう。

願わくは、2020年イースターの主日の朝、どんな失敗をしたとしても、過ちを犯したとしても、失敗したペテロと弟子たちにさらたように、復活の主がみなさんにも、家庭にも訪ねて下さっていつもともにおられ、変わらない愛を持ってみなさんと豊かな交わりが持たれ、主の癒し、回復させてくださる豊かな恵みを心からお祈り致します。アーメン！

